

2. 15 年 3 月期決算の概況

三井住友銀行の 15 年 3 月期決算は、(図表 1-1)収益動向及び計画に示した通りであります。

なお、前述の通り、三井住友銀行とわかしお銀行は、15 年 3 月 17 日に合併いたしました。以下の損益及び平残項目の記述におきましては、両行の単純合算計数を記載しております。また、連結ベースの計数につきましては、三井住友フィナンシャルグループの連結計数を記載しております。

〔業務粗利益〕

業務粗利益は、円金利や米ドル金利等の動向を捉えた A L M 運営が奏効し、トレジャリー収益が好調に推移したこと等により、1 兆 7,606 億円と計画値を 2,606 億円上回る結果となりました。

〔経費〕

経費につきましては、人員の削減や賞与ファンドの追加削減を実施したことに加え、国内店舗統合の早期実現や事務合理化の推進等により、6,470 億円と合併した旧わかしお銀行の経費 81 億円の合算後で計画値を 30 億円上回る削減を実現いたしました。

〔業務純益〕

以上の結果、一般貸倒引当金繰入を除く業務純益は 1 兆 1,136 億円と計画値を 2,636 億円上回りました。

〔臨時損益その他〕

貸倒償却引当費用につきましては、不良債権処理損失額が 8,364 億円、一般貸倒引当金繰入額が 2,381 億円、合計 1 兆 745 億円となりました。

また、株式等関係損益につきましては、売却損益のネットで 1,082 億円の売却損を計上したほか、減損ルールに基づき 5,275 億円の償却を実施したことから、6,357 億円の損失となりました。

〔経常利益〕

以上の結果、経常利益は計画値を 8,272 億円下回る 5,972 億円の損失となりました。

〔特別損益〕

経営合理化の一環として廃止した店舗等の不動産処分損および現状復旧にかかる除却損、解体損等により、動不動産処分損益が 262 億円の損失となったほか、退職給付会計基準変更時差異償却として 202 億円を計上しております。これらにより、特別損益は 738 億円の損失となりました。

〔当期利益〕

以上の結果、当期利益は計画値を 5,583 億円下回る 4,783 億円の損失となりました。これは、業務純益(一般貸倒引当金繰入前)が業務粗利益の大幅過達や経費の追加削減により計画値を 2,636 億円上回り、業務純益 R O E (一般貸倒引当金繰入前)も 40.52%と計画値を 14.28%上回ったものの、積極的な不良債権処理により貸倒償却引当費用が 5,745 億円増加したことに加え、計画策定時の想定を上回る大幅な環境悪化により株式等関係損益が計画値を 5,657 億円上回る損失となったこと、によるものであります。

〔連結決算〕

三井住友フィナンシャルグループの 15 年 3 月期連結決算は、(図表 1-2)収益動向に示した通りであります。

連結決算の範囲につきましては、実質支配力基準、実質影響力基準に基き、判定しております。15 年 3 月期につきましては、連結子会社 170 社、持分法適用会社 47 社、計 217 社について、連結決算を実施いたしました。

連結の損益といたしましては、経常利益は 5,157 億円の損失、当期純利益は 4,654 億円の損失となりました。

また、15 年 3 月末の連結自己資本比率は、10.10%となりました(図表 2)。